



urban concept store and resort 蔵の街
蔵の街とちぎビジネスプランコンテスト 2023 優秀賞

たかだ あすか
高田 明日香 さん

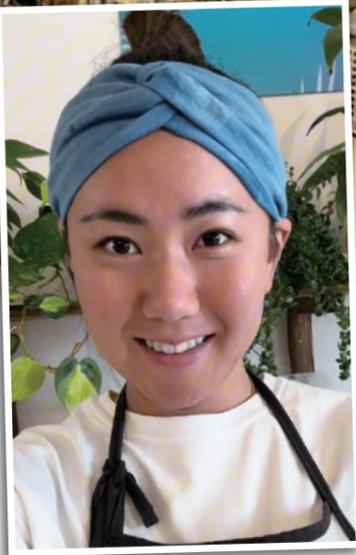
「人と地球に優しい、買い物しながら学べるお店」として箱森町に urban concept store and resort 蔵の街をオープンし、蔵の街とちぎビジネスプランコンテスト 2023 優秀賞・とちぎおいしいーとこフードバレー賞を受賞した高田明日香さんにお話を伺いました。



環境問題と健康

栃木市で生まれた高田さんは、お兄さんの影響でサーフィンを始め、高校卒業後は茨城県に移り住み、サーフィンにのめり込みました。そのころからサーフィンを通して、環境問題について関心を持っていたそうです。全日本大会へ出場するほどの実力でしたが、プロの道へは進まずに、栃木市へ戻り就職することに。「就職して数年働いていましたが、体調を崩してしまいました。そんな時、添加物などの化学物質が人体に与える影響について学びました。試しに添加物を控えると、体調が良くなったので、食べ物と健康の関係について考えるようになりました。そして、添加物を完全に断つのではなく、自然由来のものとのバランスをとることが大切だと気付きました。」

その後、2年間農業に従事するなど精力的に活動してきた高田さん。環境問題や健康について、自分が学んだ



ことや経験を情報発信するためにお店を始めたそうです。

明るく居心地の良い店内

店内は、エコを意識したサステナブル雑貨、自然由来の日用品雑貨、無添加食品、ハワイアン雑貨などが並び、明るく居心地の良い空間になっています。その中でもまず目に留まるのは、栃木市内で初めて導入されたという生活用洗剤の量り売りのコーナー。容器が不要であるため、安価に販売できるほか、プラスチックの削減にもつながるそうです。「みなさんが身近なものから環境や健康について考えるきっかけになれば、と思い始めました。」と語ってくれました。

買い物しながら学べるお店

サーフィン、農業、起業など様々な経験を積んできた高田さん。お店のセールスポイントを尋ねると「買い物しながら学べるお店をコンセプトにしています。商品を見てもらいながら、私が学んできたことを伝えていきます。私の知識を添えて商品を提供することで、お客さんが自分達には何ができるのかを考え、未来へつなげる持続可能な行動を取れるように促しています。そういう意味では、一番の商品は私ですかね。」と笑顔で答えてくれました。

今後の目標

「一番大切なものは、人とのつながりです。お店に来たお客さん同士がつながることができる、『たまり場』のようなお店にしていきたいです。」



栃木市消防本部からお知らせ



熱中症で救急搬送される方が増えています！



消防本部では、令和5年と令和4年の月別猛暑日数および熱中症救急搬送人数を比較しました。令和5年は令和4年より、35℃を超える猛暑日（消防本部で観測）が13日間多くなり、熱中症搬送人数も37人増えています。

近年、熱中症対策を呼びかけていますが、搬送人数は増加傾向にあるため、より注意が必要です。



比較		5月	6月	7月	8月	9月	合計
令和5年	猛暑日(35℃以上)	0日	0日	14日	19日	3日	36日
	熱中症搬送人数	7人	15人	68人	38人	10人	138人
令和4年	猛暑日(35℃以上)	0日	6日	9日	8日	0日	23日
	熱中症搬送人数	4人	33人	32人	26人	6人	101人

特に、暑くなり始める時期にご注意ください！

詳細は、消防本部ホームページをご覧ください▼



熱中症対策『**暑熱順化**』とは？

熱中症にならないために…

有効な熱中症対策の一つに、体を暑さに慣れさせる『暑熱順化』があります。この『暑熱順化』について理解し、実際に気温が上がり熱中症の危険が高まる前から熱中症対策を行いましょう。体が暑さに慣れ『暑熱順化』がすすむと、発汗量や皮膚血流量が増加し、発汗による気化熱や体の表面から熱を逃がす熱放散がしやすくなることで、熱中症になりにくい状態になります。『暑熱順化』には個人差もありますが、数日から2週間程度かかります。本格的に暑くなる前から、無理のない範囲でウォーキング等の運動や入浴により汗をかき、暑さに慣れていきましょう。



夏になり気温が高くなったら、こまめな水分補給を行い、涼しい服装や、日差しを避けエアコンを使用し涼しい場所で過ごし、バランスの良い食事で体調を整え、熱中症警戒アラートなどの熱中症情報に注意して、厳しい暑さを乗り切りましょう！



問 消防本部 警防課 ☎(23)0070



サクラを守ろう！！
STOPクビアカ

問 環境課 ☎(21)2420

写真提供：栃木県

特定外来種「クビアカツヤカミキリ」の被害が拡大しています。幼虫がモモ、ハナモモ、スモモ、ウメ、サクラに寄生し、内部を食い荒らすことで、樹木は最終的に枯れてしまいます。



成虫の特徴

- ・成虫は、6月から8月に現れる
- ・頭からお尻までの長さは、2～4cm
- ・全体に**光沢のある黒色**
- ・胸部（クビの部分）が**赤くそろばんの珠の形**
- ・捕まえると刺激臭を発することがある

防除対策

被害木は県の「クビアカツヤカミキリ防除対策マニュアル」に沿って、薬剤処理やネット巻きをしなければなりません。また、活動期である5月から8月の被害木の伐採は原則禁止されています。詳細は県ホームページをご確認ください。



被害木の特徴

幼虫が入り込んだ樹木からは、大量の**フラス**（幼虫のフンと木くずが混ざったもの）が排出されるので、目印となります。

運搬や飼育・販売などは禁止！

クビアカツヤカミキリは「特定外来生物」です。生きたままの運搬や飼育、販売等が禁止されています。違反した場合には罰則があります。



映像通報でリアルタイムに
Live(ライブ)119通報が始まります

このたび119番通報を受ける通信指令センターが新しくなりました。新しい通信指令センターでは、7月3日（水）から通報者と通信指令センターをリアルタイムの映像でつなぐ【Live119】を導入します。これはスマートフォンから119番通報をする場合に、テレビ電話のように映像を撮影しながら状況を伝えることができるようになる



スマートフォンを活用した【Live119映像伝送システム】を開始します



システムです。これにより、通信指令センターでは言葉だけでは伝わりにくい災害の規模や傷病者の状況を確認できるため、迅速な災害対応や適切な応急手当の方法を伝えることができます。

【Live119】の詳しい接続方法は、消防本部ホームページまたは、2次元コードからご確認ください。

問 消防本部 通信指令課 ☎(22)0119